

（4 月）雨雲レーダー （牧之原雨雲レーダー観測所）

天気予報は、毎日の生活の中で欠かせない情報。今はスマホで見ることが多く、雨の日は、雨雲レーダーによる現在の雨雲の分布、強さ、今後の雨雲の動きの予測も見ることが出来る。

この雨雲レーダーは、1940 年代にレーダー機器が軍事利用されるなか、強い雨がノイズとして検出されることが分かり、雨雲レーダーへの利用に繋がった。日本では気象庁が 1954 年に雨雲レーダーの運用を開始し、現在は全国の 20 か所に設置・運用しており、国内にかかる全ての雨雲をカバーすることが出来る。またレーダーの電波は空中を直進するため設置場所は、建物や地形の影響を受けない場所に設置している。静岡県内にも、牧之原台地の茶畑のなかに牧之原雨雲レーダー観測所がある。

（備考）

雨雲レーダーは、アンテナを回転させながら電波を使って、半径数百 km の広範囲内に存在する雨雲や雪雲の分布を 5 分毎に観測している。（鈴木徹）